

暑中お見舞い申し上げます。

コロナウイルス感染急拡大の東京いや日本で、とうとう東京五輪が始まりましたね。「国民の命と健康を守る」はどこかへ飛び、パンデミック下で強行される意義はどこにあるのでしょうか。異例で異様な東京五輪。例えば森前首相の女性蔑視発言や渡辺直美さんへのルッキズム（外見至上主義）問題、いじめやホロコーストなどなど、オリンピックの意思決定に関わる人たちのモラルの欠如が世界からの外圧で表面化し、日本の政治レベルの低さや国民の人権意識の遅れが世界中に知れ渡る事になりました。



「五輪きょう開会式」～分断と不信、漂流する祭典～

理念と説明欠くまま

2016 年大会の招致に失敗すると東日本大震災からの復興を目的に持ち出し、当時の安倍首相は原発事故の影響を「アンダーコントロール（管理下にある）」と国際社会にアピールした。現実を欺くこの演説などで招致を果たした後も、コンパクト五輪構想の破綻、経費の膨張、招致をめぐる買収疑惑、責任者の相次ぐ交代など、運営の根幹を揺るがす事態が続いた。理念と説明を欠き、不都合なことには目をふさいで暴走する体質は、コロナ禍が起きても変わらず、一層顕著になった。（中略）五輪といえどどんな無理も通るというおごりと、根拠なき楽観論の行き着いた果てが、「緊急事態宣言下での無観客開催」といえる。

感染防止を最優先で

この1年4ヵ月は、肥大化・商業化が進んで原点を見失った五輪の新しい形を探る好機だった。実際、大会組織委員会にもその機運があったという。ところがいざ実行に移そうとなると、関係者の思惑が絡み合い、何より国際オリンピック委員会（IOC）と、その背景にいる米国のテレビ局や巨大スポンサーの意向が壁となって、将来につながる挑戦にはほとんど手をつけられなかった。（中略）主催者が引き続き全力を傾けるべきは、言うまでもなく感染防止策の徹底である。入国した選手や関係者がウイルスを拡散させないのはもちろん、「日本発」のウイルスを持ち帰らせないようにしなければならない。

選手にエール等しく

コロナ禍以外にも、世界には紛争、テロ、貧困などの問題が渦巻く。今回も難民選手団が結成された。困難を乗り越えて参加にこぎつけた全てのアスリートには、問

題の是非を離れて、それぞれの競技で持てる力を存分に発揮してほしい。(中略)
開会式に先立って始まった競技では、選手たちがそろって片ひざをつくポーズをとり人種差別に抗議するシーンが見られた。今大会では女性の参加がさらに広がり、男女が一緒になって争う種目も増える。

競技を観戦することは、戦争と平和、差別の根絶、両性の平等、そして幾つもの不祥事によって痛感させられた、この国の人権意識の遅れについて、思いを巡らせる機会ともなろう。

躍動する選手の姿を通じてスポーツのもつ力と人間の可能性を認識し、より良い世界をともに築く決意を新たにする。主催者側が具体性をもって示すことのできなかった大会の意義を、私たち一人ひとりが独自の視点で見いだすようにしたい。

(2021年7月23日(金) 朝日新聞社説から抜粋)

本来なら期待に胸躍る時ですが、コロナ禍に加え、事前になって式典担当者の辞任や解任が伝えられ、まちには高揚感も祝祭気分も感じられない。五輪を強行する意義が解らず五輪開催反対デモまで繰り広げられ、人々の間に理解と共感が広がらず、分断と不信の中で幕を開けた異例で異様な五輪です。とにかく大会が無事に終わることを願うばかりです。そしてアフターコロナを踏まえ、人権意識の遅れを取り戻すために私たちは考え行動すべきです。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」にならないようにしたいものです。

